科目名	生　涯　学　習　概　論	単位数	2	担当教員	松尾　信子

授業の内容	今日では、生涯学習の重要性が増しており、人びとはさまざまな機会と方法で、生涯にわたって自発的に学習することが求められています。この講義では、生涯学習の概念が生まれた歴史的背景、そして、なぜ現代社会において生涯学習が必要なのか、ということについて学びます。また、これから地域の生涯学習推進の中核的な拠点となるのが図書館です。ですから、図書館司書が学習者の援助や指導を行う上で不可欠な知識や考え方についても理解を深めます。
到達目標	この講義では、次の３点を到達目標にしています。 ①　生涯学習の理念や意義を理解し、専門用語を用いて自分の考えを述べることができる。 ②　自己の生涯学習プランを作成することができる。 ③　図書館司書の役割を理解し、学習者への支援について考えることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）
	第２回	生涯学習の理念と歴史（～明治中期）
	第３回	生涯学習の歴史（明治末期～）
	第４回	ユネスコの生涯教育論
	第５回	OECD のリカレント教育
	第６回	生涯学習と学校教育
	第７回	【個人ワークと発表】生涯学習の理念や意義について、専門用語を用いて自分の考えを述べる
	第８回	生涯学習の方法と内容
	第９回	生涯各期の発達課題と生涯学習
	第 10 回	【個人ワークと発表】自己の生涯学習プランを作成し、発表する
	第 11 回	生涯学習のための施設と各施設の専門職員（司書、学芸員 等の役割と専門性）
	第 12 回	【グループワークと発表】図書館司書の役割を理解し、学習者への支援計画を作成し発表する
	第 13 回	生涯学習施設におけるボランティアの意義とその学び
	第 14 回	生涯学習・生涯教育の計画化
	第 15 回	授業の総括と小テスト

授業に対する予習・復習		
	予習：　レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：　授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 筆記試験（４０％）、課題（４０％）、授業態度（２０％）
教科書	
参考文献	
注意事項	1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。 2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。 3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型ですので、楽しく活発な授業内容になるように協力してください。

科目名	図　書　館　概　論	単位数	2	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	図書館の機能や社会における役割について講じます。歴史と現状について概観し、種類とそれぞれの利用者ニーズ、図書館員の役割、類縁機関との関係、今後の課題と展望について解説します。これまでのイメージを刷新し、職場としての図書館、社会の中の図書館という観点を獲得することを目指します。
到達目標	・図書館についてのステレオタイプなイメージを改めることができる ・大学卒業後の人生の中での図書館と自分のかかわりを考えられるようになる ・他人に図書館のことを説明できるようになる

授業計画		
	第１回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係
	第２回	図書館の現状
	第３回	図書館の社会的意義
	第４回	図書館と知的自由
	第５回	図書館の歴史１：世界の図書館
	第６回	図書館の歴史２：日本の図書館
	第７回	図書館の種類１：公共図書館
	第８回	図書館の種類２：学校図書館
	第９回	図書館の種類３：大学図書館
	第 10 回	図書館の種類４：専門図書館
	第 11 回	図書館の種類５：国立図書館
	第 12 回	図書館員の役割１：概要
	第 13 回	図書館員の役割２：種類別
	第 14 回	図書館の類縁機関と利害関係者
	第 15 回	図書館の今後とまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　地元の図書館の利用 『カレントアウェアネス・ポータル』の閲覧	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（７０%）、小課題（３０%）
教科書	
参考文献	『図書館概論』（塩見昇編著、日本図書館協会、2012 年） 『図書館情報学基礎（シリーズ図書館情報学）』（根本彰編、東京大学出版会、2013 年）
注意事項	国立国会図書館のウェブサイト『カレントアウェアネス・ポータル』を日常的に閲覧することが望ましいです。 成績評価は、4 回ごとの小課題と期末レポートで行います。前回分の小課題は次回の冒頭に回収します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。

科目名	図書館制度・経営論	単位数	2	担当教員	西巻　悦子

授業の内容	・図書館が組織を効率的、効果的に運用し使命を達成する過程を理解し、図書館経営に興味と関心が持てるようにする。 ・図書館経営の意義、自治体行政のしくみと図書館業務、館長及び職員の職務と研修、サービス計画と評価、他図書館や関係機関との連携・協力等、図書館経営と経営の課題について解説する。
到達目標	・図書館の制度について図書館関連法規から理解する。 ・国の図書館政策について知る。 ・図書館の人や組織について知る。

授業計画		
	第１回	図書館における制度と経営：図書館をめぐる法体系として、日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法当の関連法規を概説する。
	第２回	制度の定義・意義：制度の定義は行政(政治上の事務)であり、行政活動（政府の公共政策の立案・実施）であることを概説する。さらに、図書館制度の意義は、図書館サービスがどの地域や機関でも望ましい形で行われることであることを概説する。
	第３回	図書館に関わる法：社会教育法、生涯学習振興法、地方教育行政法、地方自治法、地方公務員法について概説する。
	第４回	図書館と学問の自由：図書館は市民の自主的な研究への資料提供を保証し、市民の学問的自由を擁護し、市民の知る権利に貢献するものであることを概説する。
	第５回	子どもの読書活動および文字･活字文化の振興に関連する法規：子どもの読書活動の推進に関する法律の制定に至る経緯や文字・活字文化振興法の制定に至る経緯を概説し、その意義について解説する。
	第６回	図書館サービスと経営に関する法規　：著作権法　・公共サービス基本法・個人情報保護法等を概説する。さらに図書館員の倫理綱領を説明し図書館員に何が求められているか考えてもらう。
	第７回	図書館政策：図書館政策の歴史的変遷と今日の司書科目に至るまでを概説する。さらに、図書館の設置及び運営上の望ましい基準について詳しく説明する。
	第８回	図書館政策の歴史：補助金政策、政策提言・調査研究、地域活性化交付金、司書科目、図書館職員について概説する。
	第９回	公共性の概念と図書館：日本図書館協会の役割と公共性について概説する。
	第 10 回	図書館の公共性と図書館長の役割：図書館の公共性と 図書館長の役割について概説する。ビデオ「図書館長の一日」視聴。
	第 11 回	図書館の公共性と図書館で働く人：資格に基づく司書、資格に基づく司書補、資格を持たないが図書館サービスに従事する図書館の正規職員、図書館の設置機関によって雇用される非常勤職員・嘱託職員、他の業務に従事する図書館の職員等を概説する。
	第 12 回	図書館ボランティア：図書館サービスは社会に役立つボランティア活動に適合するものであり、住民の意志に基づく図書館運営を推進する力を持つものであることを概説する。
	第 13 回	サービスの計画とマーケティング：マーケティングはグローバルな視野に立ち、地域住民との相互理解を得ながら、公正な競争を通じて行う市場創造のための総合的活動であることを概説する。
	第 14 回	図書館の管理運営・業務の外部化：地方自治体の財政逼迫官から民へ遷り、図書館法の問題設置者による管理が不明確になりつつあることを説明し、今後の在り方について各自の意見を発表する。
	第 15 回	電子政府と図書館：情報アクセス、サービスの提供、e コマース、危機対応、調達、ガバナンス、e コンプライアンス等を解説する。

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　配布資料の読了および提示した関連参考文献の自習。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない。 筆記試験（６０％）、課題（３０％）、発表（１０％）、授業態度（１０％）
教科書	『図書館制度・経営論』（糸賀雅児・薬袋秀樹、樹村房）
参考文献	随時、提示する。
注意事項	コメントシートの記入をしていただきます。各回のコメントシートは課題として評価に反映させます。また、積極的な意見発表や感想発表も授業態度として評価に反映させます。

科目名	図書館情報技術論	単位数	2	担当教員	小山　守恵
授業の内容	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために，コンピュータの基礎，図書館業務システム，データベース，検索エンジン，電子資料，コンピュータシステム等，図書館業務とサービスにおける情報技術やインターネットの活用について解説する。				
到達目標	印刷資料からデジタルコンテンツまで、図書館で活用されているいろいろな情報技術への理解を深める。				

授業計画		
	第１回	ガイダンス　　図書館情報技術の全体像
	第２回	コンピュータとネットワークの基礎
	第３回	情報技術と社会
	第４回	図書館における情報技術の現状
	第５回	図書館業務システムの仕組み
	第６回	情報検索の基礎技術　①　主題分析
	第７回	情報検索の基礎技術　②　検索
	第８回	データベースの仕組み
	第９回	検索エンジンの仕組み
	第 10 回	電子資料
	第 11 回	デジタルアーカイブ
	第 12 回	情報システムの管理
	第 13 回	図書館と著作権
	第 14 回	これからの図書館
	第 15 回	図書館委託業務　まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　毎回指示する	復習：　毎回指示する

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない レポート（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	教科書は使用せず、授業関連資料を配布する。
参考文献	『ライブラリー図書館情報学３　図書館情報技術論』（学文社．1900 円）
注意事項	講義中心のため授業内容確認のための課題を提示することがある。 全体の流れにより多少の変更がある。

科目名	図書館サービス概論	単位数	2	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	図書館サービスは、時代・社会の変化に伴って変化を続けています。サービスの全体像と各サービスの基礎を講じます。加えて、現在提供されているサービスがなぜ提供されるようになったのかという背景解説、提供されなくなったサービスについての経緯説明、今後提供が期待されるサービスについての検討を行います。
到達目標	・図書館サービスの種類を理解し、使えるようになる ・サービスの提供に必要な準備について理解し、図書館職員側の視点を持つことができる ・生涯、図書館サービスを活用できるようになる

授業計画		
	第１回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係
	第２回	図書館サービスの概観
	第３回	現代の図書館サービスの傾向・特徴
	第４回	図書館サービスの歴史的変遷
	第５回	図書館サービスの種類１：資料の提供
	第６回	図書館サービスの種類２：情報の提供
	第７回	図書館サービスの種類３：人材・場所の提供
	第８回	図書館サービスの種類４：図書館ネットワーク
	第９回	図書館サービスの種類５：特定利用者層向け１：児童
	第 10 回	図書館サービスの種類６：特定利用者層向け２：その他
	第 11 回	図書館サービスと法律の関係
	第 12 回	図書館サービスと社会の関係
	第 13 回	図書館サービスと図書館員の役割
	第 14 回	情報サービスと図書館サービスの違い
	第 15 回	図書館サービスの今後とまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　地元の図書館の利用 地元の図書館の Web サイト閲覧 国立国会図書館の Web サイト閲覧	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（９０%）、課題（１０%）
教科書	無し
参考文献	『図書館サービス概論（現代図書館情報学シリーズ 4)』(宮部頼子編、樹村房、2012 年)
注意事項	図書館以外の公共施設が提供しているサービスを改めて意識することが望ましいです。 成績評価は、小課題と期末レポートで行います。小課題は期首に掲示します。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。

科目名	情報サービス論	単位数	2	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	情報サービスは図書館サービスの一種です。サービスそのものだけでなく、情報についての考え方、人間の情報への関わり方といった周辺への解説も行います。情報サービスを提供するために必要な知識を獲得し、実践に役立てます。サービスの提供だけでなく、サービスの利用を拡大するための知識についても学びます。
到達目標	・図書館サービスと情報サービスの違いを理解し、説明できる ・情報サービスに関するさまざまな要素を理解し、説明できる ・情報サービスの代表的存在であるレファレンスサービスと情報検索サービスについて理解し、説明できる ・利用者ではなくサービス担当者としての評価視点を持つことができる

授業計画		
	第１回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係、情報社会と図書館
	第２回	情報サービスの種類：直接的サービスと間接的サービス
	第３回	情報行動１：情報処理のモデル
	第４回	情報行動２：問題解決と意思決定のモデル
	第５回	情報源１：主要な情報源
	第６回	情報源２：副次的な情報源
	第７回	レファレンスサービス１：理論
	第８回	レファレンスサービス２：事例にみる実際
	第９回	レファレンスサービス３：事例にみる実際
	第 10 回	情報検索サービス１：概要
	第 11 回	情報検索サービス２：情報検索システムとは
	第 12 回	情報検索サービス３：有用なサービスたち
	第 13 回	情報発信：Web と館内
	第 14 回	図書館の利用教育
	第 15 回	情報サービスの未来像とまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　図書館サービス概論の内容	復習：　情報サービス演習で用いられる専門用語

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（１００％）
教科書	無し
参考文献	『情報サービス論』（山崎久道編、樹村房、2012 年） 『情報サービス論及び演習（ライブラリー図書館情報学 6)』（中西ほか著、学文社、2012 年） 『検索エンジンはなぜ見つけるのか』（森大二郎著、日経 BP、2011 年） 『図書館に訊け！』（井上真琴著、筑摩書房、2004 年）
注意事項	「情報サービス演習」を履修する前提です。演習での技能の習得を滞りなく行えるだけの理解を得ること最低限の目標とします。 成績評価は、期末レポートで行います。レポート課題は 2 点あります。期末レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。

科目名	児童サービス論	単位数	2	担当教員	西巻　悦子

授業の内容	児童サービスの目的は子どもと人類の文化遺産の最も良いものである本とを結ぶことである。公共図書館の児童サービスと児童図書館の活動を中心に講義を進め，読者である子どもに提供する児童向け図書資料への理解を深めることと、子どもと本を結びつける技術を習得することを目指する。前半は児童サ-ビスの前提である児童資料について述べ、後半は子どもと本を結ぶサービスの一つである「読み聞かせ」「ブックトーク」「ストーリーテリング」を授業の中で実際に行うことを課題とし、各自の発表を組み込んで授業を進める。
到達目標	・児童サービスの意義を理解する。 ・児童向け図書資料の種類と特徴を理解する。 ・子どもと本を結びつける技術を習得する。

授業計画		
	第１回	児童サービスとは：児童の概念の発生はいつ頃からか、公共図書館における児童サービスの担当者は どのような人が求められるか、児童サービスの対象はどの年齢からどの年齢までか等について概説する。
	第２回	児童資料の種類：絵本、創作児童文学、昔話・その他の伝承文学、詩その他、ノンフィクション、知識の本、本以外の資料等、児童資料の種類それぞれを概説し、それぞれの内容を解説する。
	第３回	児童サービスの歴史：アメリカの児童サービスの歴史からはじめ、日本の児童サービスの歴史からまで今日までの流れを学ぶ。それによって、今後の公共図書館での児童への図書館サービスには何が重要かを考える。
	第４回	児童資料コレクションの形成：児童サービスが子どもに果たす役割を考え、国際子ども図書館や地域の公共図書館のブックリストを検討する。
	第５回	児童図書館の資料：資料を選択するためにレビュースリップを作成する。テンプレートをもとに各自が自分の選択した本のレビュースリップを書く。これによって児童資料への理解を深める。
	第６回	読み聞かせ演習準備：図書館で資料を探す。ワークシートに書誌事項や内容を記述する。
	第７回	読み聞かせ演習：各自、対象年齢を仮想し、グループごとに１人ずつ読み聞かせを行う。代表者を選出し、相互に評価し合う。
	第８回	乳幼児期の読書について：ブックスタートへの理解を深め、読み聞かせの意義を再認識してもらう。ＤＶＤ視聴。
	第９回	ブックトーク演習準備：ブックトークのための選書を行う。テーマを決め、シナリオを作成する。ワークシートに所定の書誌事項その他を書き、話の構成を考える。
	第 10 回	ブックトーク演習：各自、対象年齢を仮想し、グループごとに１人ずつブックトークを行う。代表者を選出し、相互に評価し合う。
	第 11 回	ストーリーテリング演習準備：ストーリーテリングとは何かを概説し、耳から聞く読書の重要性を理解する。東京子ども図書館の「お話のろうそく」シリーズを各自１冊ずつ選んで、内容を把握する。ワークシートにあらすじを記入する。
	第 12 回	ストーリーテリング演習：各自が選んだお話を素話ということを意識して、なるべくテキストを見ないで話す。１人１話とする。相互評価を行い、共感できたか感動を共有できたかを確認する。
	第 13 回	お話し会等行事：グループごとにどのような行事が可能か企画を考える。行事が子どもと本を結びつけるためにどのような効果があるか、行事を想定した企画を考える。
	第 14 回	デジタルストーリーテリング演習：ベアトリクス.ポッター作『あなうさピーターのはなし」を映像と語りで見せる。デジタル機器を活用することにより、どのような視覚と聴覚に訴える工夫が考えられるかグループごとにディスカッションする。
	第 15 回	特別な支援を必要とする児童へのサービス：デージー（デジタル機器）の紹介と活用について概説する。ＤＶＤ視聴。

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　配布資料の読了および提示した関連参考文献の自習。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 筆記試験（６０％）、課題（３０％）、授業態度（１０％）
教科書	指定しない。
参考文献	『児童サービス論』（堀川照代編、日本図書館協会 2014.）
注意事項	コメントシートの記入をしていただきますので配布資料をご持参ください。各回のコメントシートおよびおよび演習は課題として評価に反映させます。また、積極的な意見発表や感想発表も授業態度として評価に反映させます。

科目名	情報サービス演習	単位数	2	担当教員	小山　守恵

授業の内容	図書館の持つ情報資源の特性を把握し、利用者に適切な回答を提供するための基礎知識と技術を習得する。 情報入手のための情報源や情報サービスの設計、レファレンスコレクションの構築、発信型情報サービスなど、利用者の要求に対する回答処理の実践的な技術を学ぶ。
到達目標	レファレンスライブラリアンとしての自覚を持ち、信頼性の高い情報サービスができるようにする。 レファレンスブック等の印刷資料を駆使できるようにする。 ネット上の情報源とレファレンスツールを利用・活用出来るようにする。 発信型情報サービスのための知識と技術を学び、演習を通して実践的な能力を身に付ける。 最終的に自分の力で回答までたどり着ける能力を付ける。

授業計画

第１回	ガイダンス　　レファレンス能力の確認	第 16 回	情報サービスの基礎９　印刷資料の実際
第２回	情報サービスの意義	第 17 回	情報サービスの基礎 10　物・企業・団体、法律・判例特許の検索
第３回	情報サービスの設計	第 18 回	情報サービスの演習１　（練習問題の実施と解説）
第４回	情報サービスの評価　1　情報資源とレファレンスコレクション	第 19 回	情報サービスの演習２　（練習問題の実施と解説）
第５回	情報サービスの評価　2　情報資源とレファレンスコレクションの実際	第 20 回	情報サービスの演習３　（練習問題の実施と解説）
第６回	情報サービスの評価　3　情報資源とレファレンスコレクションの実際	第 21 回	情報サービスの演習４　（練習問題の実施と解説）
第７回	情報探査行動	第 22 回	情報サービスの演習５　（練習問題の実施と解説）
第８回	情報サービスの基礎１　情報資源の検索	第 23 回	情報サービスの演習６　（練習問題の実施と解説）
第９回	情報サービスの基礎２　情報資源、Web ページ・Web サイトの検索	第 24 回	情報サービスの演習７　（練習問題の実施と解説）
第 10 回	情報サービスの基礎３　図書情報、雑誌・雑誌記事の検索	第 25 回	情報サービスの演習８　（練習問題の実施と解説）
第 11 回	情報サービスの基礎４　印刷資料の実際	第 26 回	発信型情報サービス　1　インフォメーションファイル
第 12 回	情報サービスの基礎５　印刷資料の実際	第 27 回	発信型情報サービス　2　インフォメーションファイル
第 13 回	情報サービスの基礎６　新聞記事、言葉・事柄・統計の検索	第 28 回	発信型情報サービス　3　パスファインダー
第 14 回	情報サービスの基礎７　歴史・日時、地理・地名・地図の検索	第 29 回	発信型情報サービス　4　パスファインダー
第 15 回	情報サービスの基礎８　印刷資料の実際	第 30 回	情報サービスの評価　　まとめ

授業に対する予習・復習	予習：　本学図書館所蔵のレファレンスブックを知ること。 講座毎に指示する。	復習：　講座毎に指示する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	『現代図書館情報学シリーズ　7　情報サービス演習』（原田智子、樹村房）
参考文献	授業時に提示する。
注意事項	授業は PC と大学図書館蔵書のレファレンスブックを使用して行う。 レファレンスの解説と演習を行い、演習問題の記録をレポートとして作成してもらう。演習では質問に対する直接的な回答そのものを求めるのではなく、その回答に至るまでの調査経過、使用したレファレンスツールの特徴や内容構成などの理解を重視する。　全体の流れにより多少の変更がある。

科目名	図書館情報資源概論	単位数	2	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	現代の図書館には、図書・雑誌の他にも様々な形態の情報資源が存在します。また、図書館以外に存在する情報資源も利用されます。これらの生産、流通、収集、整理、公開、保存について総合的に概説します。情報資源の特性を理解し、適切な提供と利用のかたちについて知識を獲得することが目標になります。
到達目標	・図書館の情報資源（所蔵資料）を理解し、利用できるようになる ・情報資源の流通の仕組みを知り、収集や探索を行うことができるようになる ・収集・発見した情報資源を適切な権利のもとに提供することができるようになる

授業計画		
	第１回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係、情報資源とは
	第２回	情報資源の種類１：図書
	第３回	情報資源の種類２：継続資料
	第４回	情報資源の種類３：視聴覚資料
	第５回	情報資源の種類４：電子資料とネットワーク情報資源
	第６回	情報資源の種類５：その他１；地図等
	第７回	情報資源の種類６：その他２；児童資料等
	第８回	情報資源の流通１：紙媒体の流通
	第９回	情報資源の流通２：電子媒体の流通
	第 10 回	コレクション管理１：全体像
	第 11 回	コレクション管理２：収集
	第 12 回	コレクション管理３：公開
	第 13 回	コレクション管理４：保存
	第 14 回	情報資源の権利
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　日常的な図書館の利用 『カレントアウェアネス・ポータル』の閲覧	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 小課題（１０%）、レポート（９０%）
教科書	無し
参考文献	『図書館情報資源概論』（馬場俊明編著、日本図書館協会、2012 年） 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、2014 年） 『古本通:市場・探索・蔵書の魅力』（樽見博著、平凡社、2006 年） 『学術情報流通と大学図書館』（日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、2008 年） 『もうすぐ絶滅するという紙の書物について』（ウンベルト・エーコ編、阪急コミュニケーションズ、2010 年）
注意事項	成績評価は、期首の小課題と期末のレポートで行います。小課題は図書館での情報資源の利用です。レポートが適切な形式でない場合は採点対象外になります。

科目名	情報資源組織論	単位数	2	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	情報資源は、組織化（≒整理）することで初めて効率的に利用者へ提供することができます。図書館における組織化の意義・理論・技術について、歴史を踏まえつつ概説します。さらに図書館以外での情報資源の組織化についても取り上げます。組織化の目的・意義を理解し、技術の基礎となる知識を獲得することを目標とします。
到達目標	・情報資源の組織化の目的と意義を理解し、説明できる ・情報資源の組織化の理論と技術を学び、情報資源の利用をより効率的に行えるようになる ・情報資源の組織化の理論と技術を学び、自らも組織化を行えるようになる ・組織化の最新動向を知り、作業に活かすことができる

授業計画		
	第１回	履修案内、科目説明、図書館業務との関係、情報資源組織化の目的・意義
	第２回	組織化の理論・モデル
	第３回	組織化の対象：範囲と単位
	第４回	組織化の規則 1：国際的規則
	第５回	組織化の規則 2：国内規則
	第６回	組織化の技術 1：図書の記述
	第７回	組織化の技術 2：図書以外の記述 1
	第８回	組織化の技術 3：図書以外の記述 2
	第９回	組織化の技術 4：索引
	第 10 回	組織化の技術 5：主題の付与
	第 11 回	組織化の技術 6：件名
	第 12 回	組織化の技術 7：分類
	第 13 回	類縁機関の組織化：博物館・文書館
	第 14 回	組織化の新しい潮流：Linked Data
	第 15 回	演習に向けての復習とまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　情報資源組織演習で用いられる専門用語

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（１００％）
教科書	
参考文献	『情報資源組織論』（柴田正美著、日本図書館協会、2012 年） 『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ）』（田窪直規編、樹村房、2011 年） 『情報資源組織論及び演習（ライブラリー図書館情報学）』（那須雅熙著、学文社、2012 年）
注意事項	「情報資源組織演習」の履修にはこの科目の単位習得が必要です。 成績評価は期首と期末の課題 2 点で行います。課題の形式は講義中に指定します。

科目名	情報資源組織演習	単位数	2	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	「情報資源組織論」で学んだことを元に、様々な環境での組織化の仕組みを確認しながら、実際の情報資源を用いて演習を行います。組織化のための規則は、その効率化と効果を高めるために絶えることなく変更されていくので、特定の環境によらず、多種多様な情報資源を正確に記述・分類できる技術を獲得することが目標です。
到達目標	・紙上での目録作成ができるようになる ・コンピュータでの目録作成ができるようになる ・メタデータの設計と作成ができるようになる

授業計画

第１回	履修案内、科目説明、図書館業務との関わり	第 16 回	コンピュータでの目録作成 1：オリジナルカタロギング 1
第２回	目録規則の解説と実習 1：図書の記述入門 1	第 17 回	コンピュータでの目録作成 2：オリジナルカタロギング 2
第３回	目録規則の解説と実習 2：図書の記述入門 2	第 18 回	コンピュータでの目録作成 3：オリジナルカタロギング 3
第４回	目録規則の解説と実習 3：図書の記述応用	第 19 回	コンピュータでの目録作成 4：コピーカタロギング 1
第５回	目録規則の解説と実習 4：継続資料の記述入門 1	第 20 回	コンピュータでの目録作成 5：コピーカタロギング 2
第６回	目録規則の解説と実習 5：継続資料の記述入門 2	第 21 回	コンピュータでの目録作成 6：コピーカタロギング 3
第７回	目録規則の解説と実習 6：継続資料の記述応用	第 22 回	目録の品質管理 1：書誌同定と典拠
第８回	目録規則の解説と実習 7：その他資料の記述	第 23 回	目録の品質管理 2：評価と修正
第９回	件名の解説と実習 1：件名の位置づけ	第 24 回	メタデータの設計と作成 1：メタデータの設計 1
第 10 回	件名の解説と実習 2：主題の分析	第 25 回	メタデータの設計と作成 2：メタデータの設計 2
第 11 回	件名の解説と実習 3：件名の統制	第 26 回	メタデータの設計と作成 3：メタデータの作成 1
第 12 回	分類の解説と実習 1：分類の位置づけ	第 27 回	メタデータの設計と作成 4：メタデータの作成 2
第 13 回	分類の解説と実習 2：主題と観点の分析	第 28 回	メタデータの設計と作成 5：メタデータのマッピング
第 14 回	分類の解説と実習 3：分類記号の付与	第 29 回	メタデータの設計と作成 6：メタデータ関連付け
第 15 回	記述、件名、分類のまとめ	第 30 回	メタデータの管理と公開

授業に対する予習・復習	予習：　情報資源組織論の内容	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（１００％）
教科書	『情報資源組織論及び演習』（那須雅熙著、学文社、2016 年）
参考文献	『情報資源組織論及び演習』（那須雅熙著、学文社、2012 年） 『情報資源組織法：資料組織法・改』（志保田務・高鷲忠美編著、第一法規、2012 年） 『情報資源の組織化と提供』（根本彰・岸田和明編、東京大学出版会、2013 年）
注意事項	教科書以外に『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』『日本十進分類法新訂 9 版』『日本十進分類法新訂 10 版』『基本件名標目表第 4 版』『Web NDL Authorities』『NACSIS-CAT マニュアル』などを利用します。目録作成ではコンピュータも利用します。文字入力やマウス操作といった基本的操作には予めある程度慣れておいて下さい。課題の提出締め切りを過ぎた場合は評価対象外になります。

科目名	図書館基礎特論	単位数	1	担当教員	宮内　淳平

授業の内容	図書館をめぐる近年の動向や諸課題についてテーマを取り上げ、幅広く図書館サービスについて考える。その際、具体的各種サービスについて他の図書館も含め実際図書館等を見学し、広く知識を収集し、また、その内容を比較検討し学習することをねらいとする。 また、利用者対象別の各種図書館・専門図書館サービスの特質について考えてみる。
到達目標	1. 漢籍についての知識を修得する。 2. 四角號碼索引の知識を修得する。 3. 実際に四角號碼索引を使用できる。

授業計画		
	第１回	図書館と社会の関係について
	第２回	漢籍及び古典資料について
	第３回	漢籍の分類について　（中国の場合）
	第４回	漢籍の分類について　（日本の場合）
	第５回	情報検索（１）四角號碼索引とは
	第６回	情報検索（２）四角號碼索引の実際（演習①）
	第７回	情報検索（３）四角號碼索引の実際（演習②）
	第８回	図書館システム（専門図書館公立図書館と大学図書館）と図書館の施設
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習		
	予習：　近隣の公共図書館・専門図書館を訪ねし、知識を深める。	復習：　『大漢和辞典』等に触れ、漢籍及び四角號碼索引に対する理解を深める。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（５０％）、授業態度（５０％）
教科書	使用しない。適宜プリント配布予定。
参考文献	
注意事項	

科目名	図書館サービス特論	単位数	1	担当教員	小山　守恵

授業の内容	図書館の諸問題について取り上げ、幅広く図書館サービスについて知識を深める。 図書館等の視察を行い各種別図書館サービスの特質を学習する。
到達目標	各種図書館における情報サービスを理解する。

授業計画		
	第１回	図書館のサービス提供　1　諸外国の図書館
	第２回	図書館のサービス提供　2　専門図書館
	第３回	図書館サービスの提供　3　図書館の評価
	第４回	利用者教育と情報提供　1　図書館管理システムの実際
	第５回	利用者教育と情報提供　2　図書館管理システムの実際
	第６回	図書館サービスの現状　1　ポップ
	第７回	図書館サービスの現状　2　ポップ
	第８回	まとめ
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習		
	予習：　自主的に多くの図書館、類縁機関、関連教育施設を見学すること。	復習：　適宜指示する。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（８０％）、授業態度（２０％）
教科書	教科書は使用せず、授業関連資料を配布する。
参考文献	授業時に提示する。
注意事項	図書館等の視察を行い、報告書を作成。さらに、情報サービスの理解を深めるための演習を行う。 全体の流れにより多少の変更がある。 自主的に多くの図書館を見学して、図書館サービスの事例を調査することを望む。

科目名	図書館情報資源特論	単位数	1	担当教員	矢代　寿寛

授業の内容	図書館における専門資料について講じます。専門資料とは、広義には何らかの専門家が利用する資料、狭義には学術情報を指します。図書館を通じて専門資料を利用または提供することの現状と課題について概説します。学術分野ごとの主要な専門資料と、それを探索したり利用したりするための方法・ツールについて学びます。
到達目標	・専門資料とそれ以外の特性の違いを理解し、説明できる ・専門資料の特性に基づいた探索を行えるようになる ・専門資料の適切な利用を行えるようになる

授業計画		
	第１回	学術情報の概要
	第２回	学術情報のメディア
	第３回	学術情報の流通１：紙媒体
	第４回	学術情報の流通２：電子媒体
	第５回	学術情報の特徴：人文科学
	第６回	学術情報の特徴：社会科学
	第７回	学術情報の特徴：自然科学
	第８回	学術情報の特徴：その他複合科学、まとめ
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習	予習：　図書館情報資源概論の内容	復習：

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない レポート（１００％）
教科書	無し
参考文献	『専門資料論 新訂版』（三浦逸雄編、日本図書館協会、2010 年） 『科学技術コミュニケーション入門:科学・技術の現場と社会をつなぐ』（梶雅範ほか編、培風館、2009 年） 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、2014 年）
注意事項	司書資格取得のための乙群（選択）科目は、単位取得できなかった時のことを考えて必要寄り多めに履修してください

科目名	図書・図書館史	単位数	1	担当教員	西巻　悦子

授業の内容	・図書や図書館はどのように誕生しどのような経緯で今のような形態に行き着いたのか、社会的・科学的背景を考えながら、図書と図書館の歴史的な変遷を知ることをねらいとする。 ・図書をはじめとするメディアの形態、種類並びに流通の視点から、世界と日本における図書館の発展を解説する。
到達目標	・図書や図書館の誕生についてかいつまんで説明できるようにする。 ・世界と日本の、図書と図書館の歴史的な変遷の違いおよび特徴をかいつまんで説明できるようにする。 ・図書をはじめとするメディアの形態、種類の違いを説明できるようにする。

授業計画		
	第１回	情報の伝達手段としての言葉や文字を記録するメディアと記録メディアの改良の歴史を、1.甲骨文字、2.石版、3.粘土版、4.パピルス、5.羊皮紙、6.木簡、竹款、7.紙に分け、それぞれについて概説する。
	第２回	世界の図書館の歴史「古代から中世まで」について講義する。講義では、文書館から図書館へ遷る過程を遺跡や建造物から概説する。西洋、イスラム世界、中国それぞれの特徴を概説する。
	第３回	世界の図書館の歴史「古代から中世」について講義する。講義ではグーテンベルクによるヨーロッパ世界で初めて活版印刷について講義する。また、王室図書館、修道院図書館、博物館図書館の誕生と展開を概説する。
	第４回	世界の図書館の歴史「近代の図書館」について講義する。講義ではフィラデルフィア図書館会社から近代公立図書館の成立および近代のマスメディアとの関連について概説する。
	第５回	日本の図書館の歴史：日本における図書館の歴史：古代から前近代までを概説する。講義では日本における図書館の起源と発達および活版印刷術の伝来とその影響について概説する。
	第６回	日本の図書館の歴史：日本におけるの図書館の歴史：近代から戦前まで」について講義する。講義ではを書籍館、文部省書籍院・帝国図書館への変遷、公立図書館の誕生とでもクラシーの広がりを概説する。
	第７回	世界の図書館の歴史：日本における図書館の歴史を戦後民主主義と図書館に関わって概説する。講義では GHQ と CIE、、国立国会図書館の開館、図書館法制定と図書館学教育について講義する。DVD「格子なき図書館」視聴。
	第８回	世界の図書館史：図書館の歴史のまとめを行う。講義では、日本の図書館協関連団体の活動や FID(国際ドキュメンテーション連盟、ALA 等の国際的な団体や組織の活動について概説する。
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習		
	予習：	復習：　配布資料の読了および提示した関連参考文献の自習。

成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 課題（９０％）、授業態度（１０％）
教科書	指定しない。
参考文献	『図書及び図書館史』（小黒浩司、日本図書館協会 2013.）
注意事項	毎回、確認テストを行うので、必ず前回の資料を持参してください。また、毎回、コメントシートの記入をしていただきます。評価は各回の確認テストおよびコメントシートを課題とし、積極的な意見発表や感想発表等の授業態度を加えて総合的に評価にします。